慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	低成長時代における企業成長と企業金融 - 昭和50年代にみる成長力格差と資本構成を巡って -
Sub Title	
Author	亀田秀美 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第539号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0539

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0539

学生氏名　亀田秀実　（エッソ石油株式会社）

所属ゼミナール　矢作恒雄研

主査　伏見多美雄

副査　青井倫一

矢作恒雄

低成長時代における企業成長と企業金融
― 昭和５０年代にみる成長力格差と資本構成を巡って ―

我が国の企業財務は、統合的企業戦略の枠を離れ、種々の静的財務指標を代理変数とするフィナンシャルリスクの水準のみによって評価される傾向がある。当論文はこのような傾向に批判的立場をとり、財務戦略を、企業全体としての経営成果との関連において評価することを目的としている。ここでは「長期的成長の維持」を企業存続の目的と定義し、財務戦略は、この目的達成の代替的方法を示す企業戦略の一構成要素として位置付けられている。当論文においては、企業側の視点として売上高，経常利益の成長、また投資家側の視点として時価総額の成長と、三つの成長を経営成果の指標としてとりあげ、資本構成によって類型化された財務戦略とその他の企業戦略構成要素との関係が、どのようにこれらの指標に影響を及ぼすかについての定量的分析を試みた。

研究は、オイルショック以降「低成長時代」と呼ばれた昭和５０年代の１０年間を分析対象期間としており、事例研究と統計的手法による仮説検証とに分れている。事例研究では、ドナルドソンのSustainable Growth Modelを分析フレームワークとして用い、代表的製造業９社を事例としてとりあげた。次に文献研究と事例研究の結果に基づいて、財務戦略の差異が企業成長に与える影響についての仮説を構築し、東証第一部上場の製造業を対象に、重回帰モデルによる仮説検証を行なった。合わせて産業構造の影響の分析，財務戦略類型別の成長規定要因の探索も行なった。

仮説検証の結果、売上高と経常利益については、財務戦略の違いが、その成長規定要因にも影響を与えることが示唆され、幾つかの有意な戦略変数が導き出された。時価総額については、財務戦略の違いはその成長要因に何ら影響を与えないことが示唆された。